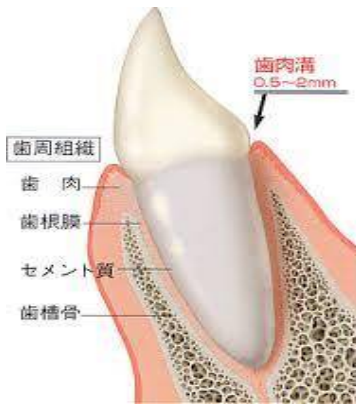


歯槽膿漏のお話し

『歯槽膿漏』とは『慢性辺縁性歯周組織炎』がひどくなった状態です。慢性ですから普段は痛くありません。時折、痛んだり腫れたり膿がでたりして気付きますが、その時点では歯周組織の破壊は進行しています。

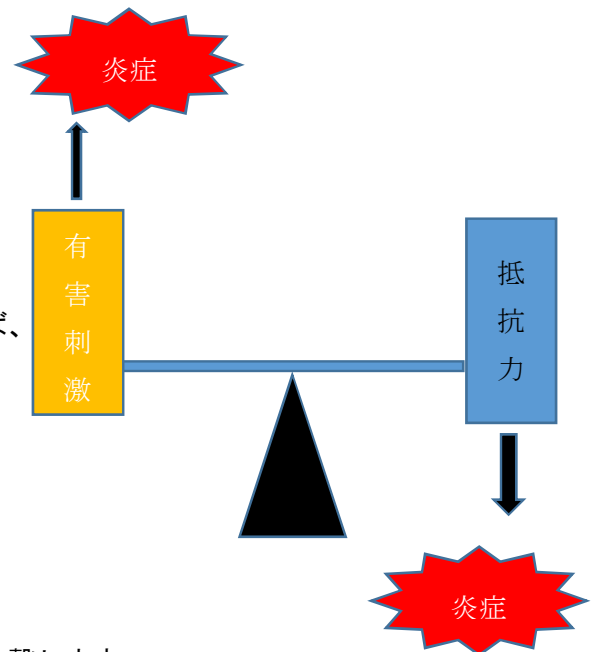


『歯周組織』とは歯と顎骨の間に介在する、『歯肉』『歯根膜』『セメント質』『歯槽骨』の4つをいいます。歯周組織炎ではこれらがやられ、歯そのものは大丈夫でも周りが歯を支えきれなくなり、グラグラになり、ついには抜けてしまいます。

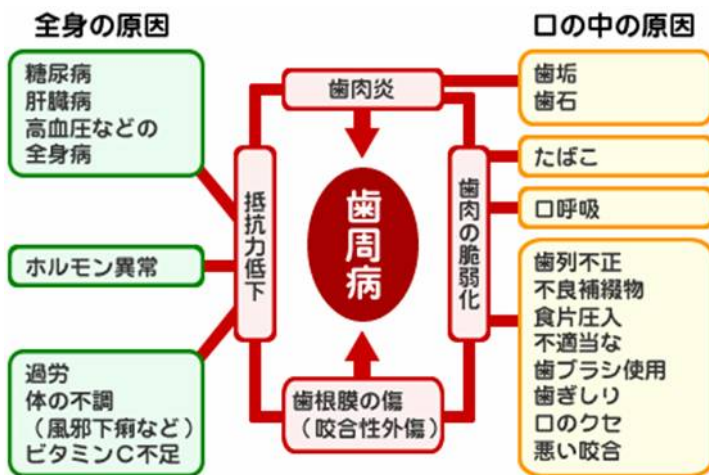


炎症は、有害刺激に対する生体の防御反応ですが、刺激に対して十分防御できれば炎症は治癒します。しかし、歯周組織が有害刺激に抵抗しきれないとき、炎症が続き、慢性辺縁性歯周組織炎へ移行していきます。

有害刺激の量や質が同じであっても、生体の抵抗力が減少すれば、炎症が起こります。若いうちは大丈夫でも年齢とともに歯周疾患患者が増えるのはそのためです。若者でも口の中が不潔であれば、当然歯周疾患のリスクは高まります。



歯周組織炎における有害物質とは、プラークです。プラークは、食べかすと細菌のかたまりで、毒素や酸を生成し、歯周組織を攻撃します。石灰化してさらに取れにくくなると、ますます細菌は増殖します。



歯周病にならないためには、そして悪化させないためには、まずは有害な刺激を取り除くことが必要です。そのためには日頃から丁寧なブラッシングを心がけ、定期的に歯科医院を受診されることをお勧めします。